

流動化する英国政治

二大政党の退潮と多党化の傾向が鮮明に

調査部付産業調査部欧州調査チーム
主任エコノミスト

川畑大地
+44 (0) 20 7012 5366
daichi.kawabata@mizuhoemea.co.jp

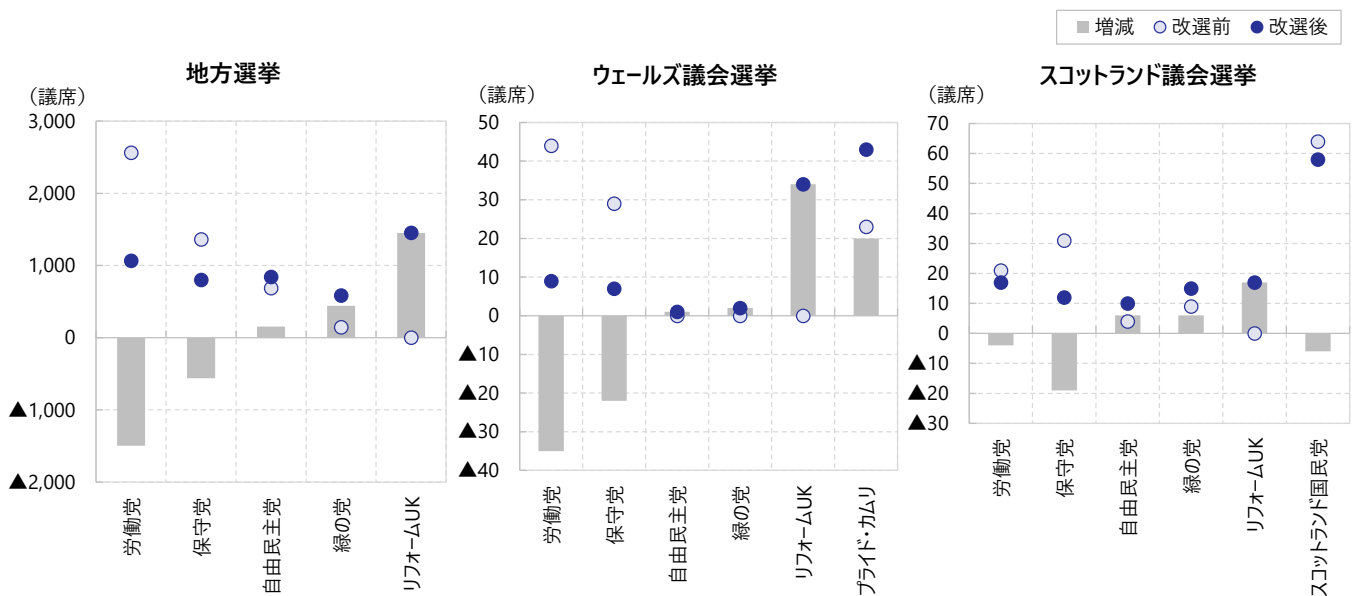
- 英国で5月7日に行われた地方選挙やウェールズとスコットランドの議会選挙では、二大政党である労働党と保守党が議席を大幅に減らした一方、リフォームUKや緑の党などが議席を積み増した
- 労働党の大敗によりスターマー首相への退陣圧力が強まっている。財政規律重視の同氏が辞任すれば財政悪化懸念が高まり金利上昇や、それに伴う景気不振等々の悪影響が生じる懸念も
- また、二大政党の退潮や多党化により次回下院選挙でいずれの政党も過半数議席に届かず政治不安が深刻化する恐れがあるほか、リフォームUKが政権与党となる可能性もゼロではない

1. 重要な意味を持つ英国地方選挙

英国では、5月7日に136の自治体で5,000以上の議席を争う地方選挙と、連合王国を構成するウェールズとスコットランドの議会選挙、複数都市での首長選挙が行われた。いずれも国政に直接的な影響を及ぼすものではなく、選挙制度や争点も国政選挙とは異なるが、選挙結果は今後の政局を見るうえで極めて重要な意味を持つ。

本稿では、昨今の英国政治・経済情勢を踏まえて選挙結果とその背景を整理するとともに、今回の選挙が今後の同国政治や経済、金融市場に与える影響について考察する。

図表1 地方選挙とウェールズ・スコットランド議会選挙の結果



(注) 本稿執筆時点で判明している結果
(出所) BBCより、みずほ総合研究所調査部作成

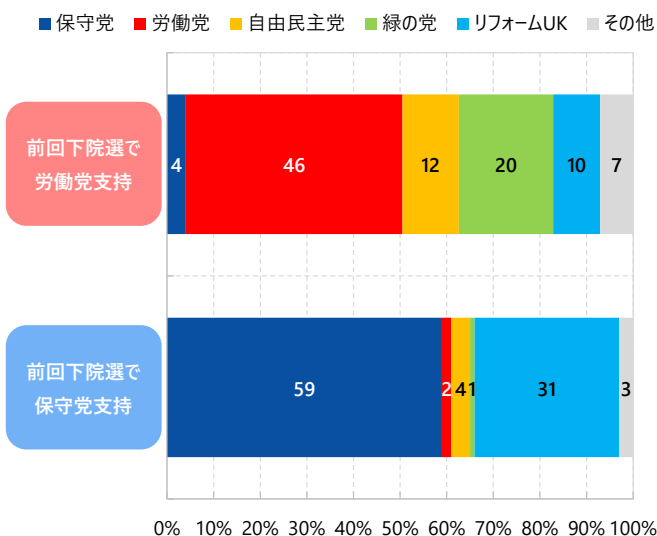
2. 二大政党の退潮とその他政党の勢力伸長による多党化が鮮明に

地方選挙では政権与党である労働党が約1,500議席減らし38の自治体で支配権を失う大敗を喫したほか、最大野党の保守党も500以上の議席を失い6の自治体で支配権を喪失した。一方で、右派ポピュリスト政党のリフォームUKが1,400以上議席を増やし、14の地方自治体で支配権を獲得するなど大きく勢力を拡大したほか、左派の緑の党や中道リベラルの自由民主党も議席を積み増した（図表1）。また、ウェールズ議会選挙では地域政党であるプライド・カムリが第一党となりリフォームUKが第二党に躍進するなか、労働党は約100年にわたって維持してきた第一党の座を明け渡す結果となった。スコットランド議会選挙では、スコットランド国民党が第一党を維持しリフォームUKが大幅に議席を増やしたのに対し、労働党や保守党は大きく勢力を落とした。

政権与党である労働党がいずれの選挙でも大敗した背景には、企業や消費者の負担増を伴う財政政策やそれによる景気の低迷、相次ぐ政策変更象徴される不安定な政権運営、未成年の人身売買罪で起訴されたエプスタイン氏と親交があったマンデルソン氏を駐米大使に任命したことへの批判があるとみられる。加えて、足元で支持を拡大するリフォームUKを意識し、移民政策など一部分野で右傾化したことも支持層の違和感を高めることとなった。こうした要因が重なり、これまで労働党を支持してきた有権者の離反を招くとともに、その受け皿として党派性の近い緑の党や自由民主党が勢力を伸ばした。実際、直近の世論調査では、2024年に行われた前回下院選挙で労働党を支持した有権者の20%が現在は緑の党を、12%が自由民主党を支持していると回答している（図表2）。

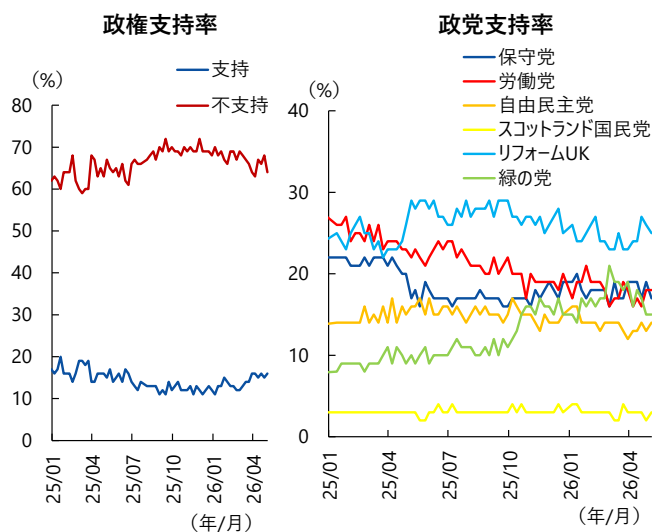
保守党については、EU離脱前後の政治・経済的混乱や、ジョンソン元首相のスキャンダルやトラス政権で発生した国債市場の混乱（トラス・ショック）等を背景とする失望感により支持を失い党勢を回復できておらず、今回の選挙でも大幅に議席を減らした。こうした中、低迷する保守党の代替政党として、リフォームUKが右派層を取り込む形で支持を拡大している。現に、前回下院選挙で保守党に

図表2 前回下院選挙で労働党と保守党を支持した有権者の現在の支持政党



(出所) YouGovより、みずほ総合研究所調査部作成

図表3 政権と主要政党の支持率



(出所) YouGovより、みずほ総合研究所調査部作成

投票した有権者の31%が現在はリフォームUKを支持しており¹（図表2再掲）、こうした票の流れが今回の選挙でも生じたことでリフォームUKは議席を積み増したとみられる。

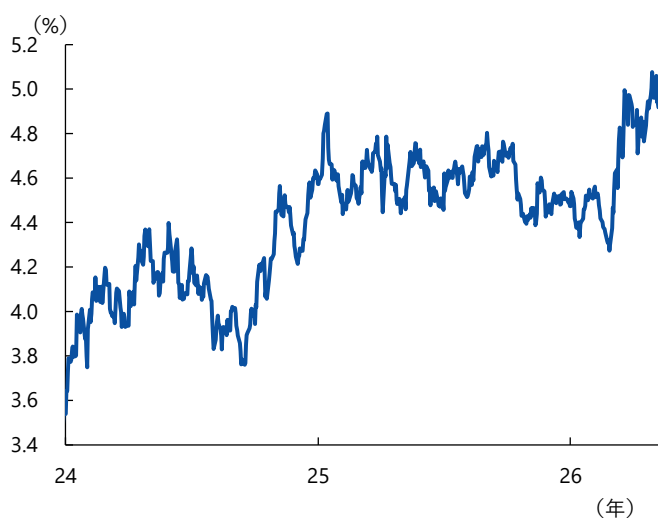
このように、昨年の地方選挙に続き今回の選挙でも労働党と保守党という二大政党の退潮が鮮明になった一方、二大政党以外の勢力が議席を積み増すなど多党化の傾向がみられ、英国の政治勢力図が大きく塗り替わりつつあることが改めて確認される結果となった。

3. 英国政治は流動化し経済や金融市場に悪影響を及ぼす可能性

今回の選挙は、短期的にも中期的にも英国政治・経済に大きな影響を及ぼすとみられる。まず、短期的な影響として最も注目されるのはスターマー首相の進退だ。スターマー政権の支持率は15%程度、労働党の支持率も18%程度と低迷している（図表3）。こうした中での選挙での大敗は、かねてより指導力や求心力に疑問符がついていたスターマー首相の立場を一層厳しいものにしており、党内からは退陣を求める声が出ている。現時点でスターマー氏は首相続投の意思を示しているが、仮に同氏が辞任に追い込まれた場合、最も懸念されるのは財政政策への影響だろう。英国の政府債務残高はGDP比で約100%であり、他の欧州諸国と比較しても高い。こうした中で、中東情勢悪化に伴うエネルギー価格上昇を背景にイングランド銀行（BOE）の利上げ観測が強まっていることで長期金利が上昇している（図表4）。足元の金利上昇に伴う利払い増加だけで3月の春季財政声明で公表されていた約236億ポンドの財政ルール対比のヘッドルーム（財政余力）は180億ポンド程度に縮小していると言われており（図表5）、今後景気減速による税収減少の影響が加わることでヘッドルームはさらに減少すると予想される。スターマー氏は財政規律を重視してきたが、ポスト・スターマー有力候補とされる人物は労働党内でも左派的な立場をとる顔ぶれが目立つ。足元では、インフレにより世論や野党から財政拡張圧力が高まりつつあることに加えて、選挙での敗北を受けて財政規律が弛緩しやすい状況だ。こうした中で首相が交代すれば、財政への懸念から金利が一層上昇し経済にも悪影響が及ぶ懸念がある。

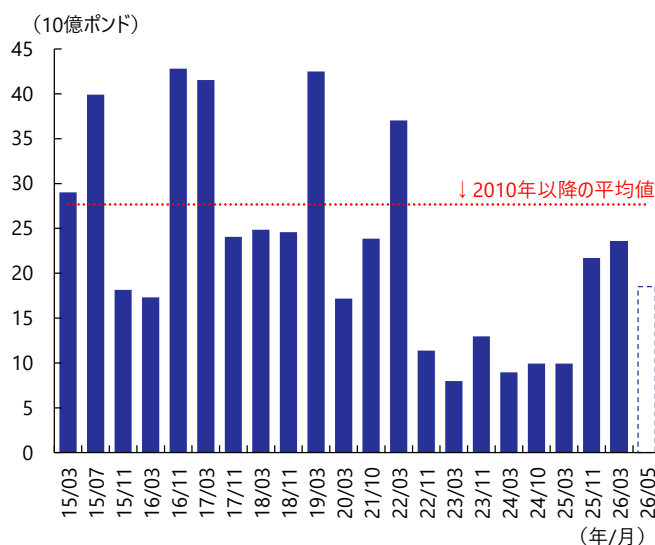
加えて、やや先の話ではあるが、2029年までに行われる次回下院選挙とその後の政局や経済への影響も重要なポイントだ。今回の選挙では二大政党の退潮とその他政党の勢力拡大により多党化が進ん

図表4 英国10年債利回り



(出所) LSEGより、みずほ総合研究所調査部作成

図表5 英国の財政余力



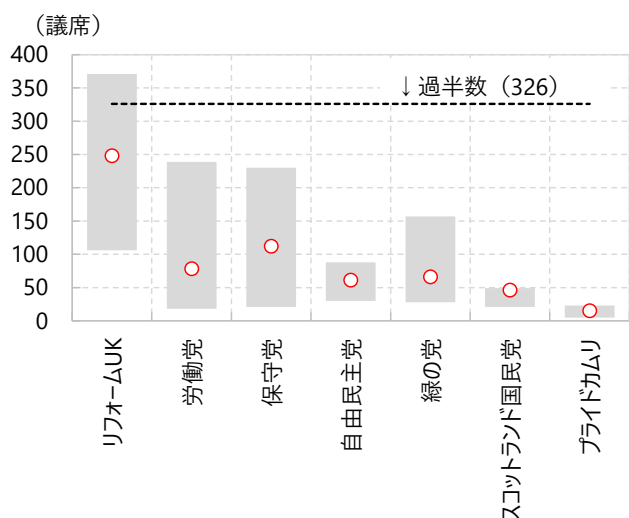
(注) 財政ルール対比の余力。白抜きは直近の推定値
(出所) OBR、各種資料より、みずほ総合研究所調査部作成

でいることが改めて確認された。今後もこの傾向が続けば、いずれの政党も単独過半数議席に届かないハングパーラメントに陥る可能性があり、次回下院選挙で過半数議席を保持する政党が不在になると予測する調査もある（図表6）。下院がこのような議席構成となれば、政権組成やその後の政策運営において政党間の調整を要するため、政策運営の停滞や政策不確実性の上昇により景気低迷や金利上昇につながる可能性が高い。特に、支持率トップのリフォームUKが次回下院選挙で議会第一党となる可能性が高い²ことは気がかりだ。この場合、同党を除く政権樹立や政策遂行が難しくなる一方で³、ポピュリスト政党との連携には否定的な立場をとる勢力も少なくないことから調整・交渉は極めて難航すると予想される。

また、リフォームUKが、地方選挙での大勝に加えて、このところのインフレも追い風に一層支持を伸ばし、次回下院選挙で単独過半数議席を確保する可能性も排除はできないだろう。中東情勢悪化に伴う原油・天然ガス価格の上昇により英国の3月のインフレ率は前年比+3.3%と2月の同+3.0%から上昇している。原油や天然ガスの供給不安が長期化する懸念を踏まえ、BOEは最新の経済見通しにおいて、先行き3年間のインフレ率を前回2月の見通しから大きく上方修正したほか、GDP成長率はインフレを受けた消費の減少等を背景に大幅に下方修正しており、今後一層の景気減速と物価上昇は避けられないだろう。経済・物価情勢の悪化はポピュリスト政党を勢いづける要因となる。Federle et al. (2024) は、予想外の物価上振れや景気下振れはポピュリスト政党等の急進的な政党の得票率を有意に押し上げ、実質賃金の減少を伴う場合はその押し上げ効果が強まると分析している（図表7）。これらを踏まえれば、リフォームUKは次回総選挙に向けて支持を伸ばし続け、単独過半数議席を獲得し政権を奪取する可能性もゼロではない。実際、次回下院選挙でリフォームUKが最大で過半数議席を確保する可能性を指摘する調査もある（図表6再掲）。仮に同党が過半数議席を獲得すれば、財政規律の弛緩⁴や厳格な移民政策による景気の下振れ、EUとの関係悪化等の影響が予想される。

英国ではこれまで二大政党が交互に政権を担ってきたことから比較的政局が安定し、政策の予見可

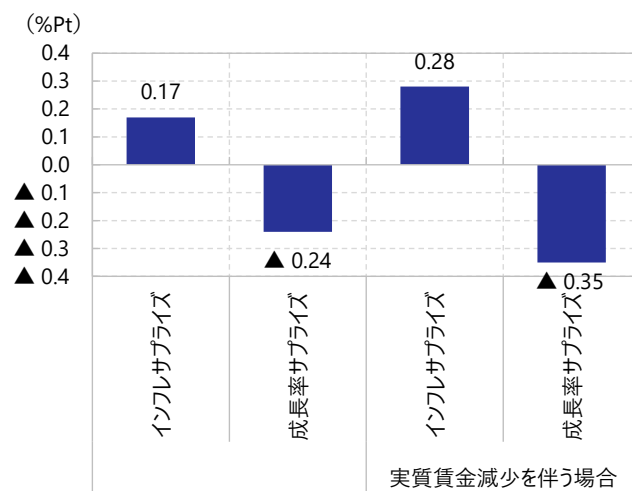
図表6 次回下院選挙の政党別獲得議席予想



(注) 白抜きのは予測獲得議席数、シャドーは想定される獲得議席数の上限と下限のバンド

(出所) Electoral Calculusより、みずほ総合研究所調査部作成

図表7 景気・物価の予想外の変動が急進政党の得票率に与える影響



(注) インフレや成長率の予想と実績値の差が+1%Pt変動した場合の急進政党の得票率の変化

(出所) Federle et al. (2024)より、みずほ総合研究所調査部作成

能性も高かったが、足元ではこうした構図に大きな変化が生じている。スターマー政権の支持率低下による短期的な政治不安定化のみならず、英国政治の構造そのものが大きく転換し流動化する可能性が高まっているだけに、今回の選挙を受けた今後の政局やそれが経済に与える影響には注視が必要だ。

[参考文献]

- Griffiths, J. D., Fieldhouse, E., Green, J., & Perrett, S. (2025). “ Looking for Labour’ s lost voters ” , British Election Study
- Federle, J., Mohr, C., & Schularick, M. (2024) . “ Inflation Surprises and Election Outcomes ” , Kiel Working Paper, No. 2278. Kiel Institute for the World Economy

¹ 2024 年に行われた下院選挙における有権者の投票行動と昨年 5 月時点の支持政党の変化を分析した Griffiths et al. (2025) は、リフォーム UK は無党派層の支持も集めていると指摘している

² ElectoralCalculus は、リフォーム UK が次回下院選挙後に議会第一党となる確率を 70%とされている

³ 議会第一党として保守党との連立や閣外協力により政権に関与するとのシナリオも存在する

⁴ リフォーム UK のファラージ党首は、このところ将来的な政権獲得を意識し、財政状況への配慮を示す発言をしているものの、公約する大規模減税の財源が不透明であるなど財政悪化が懸念されることに変わりはない

© 2026 株式会社みずほ銀行

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、弊行が信頼に足り且つ正確であると判断した情報に基づき作成されておりますが、弊行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、貴社ご自身の判断にてなされますよう、また必要な場合は、弁護士、会計士、税理士等にご相談のうえお取扱い下さいますようお願い申し上げます。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。

本資料の著作権は弊行に属し、本資料の一部または全部を、①複写、写真複写、あるいはその他如何なる手段において複製すること、②弊行の書面による許可なくして再配布することを禁じます。